

医学研究センター

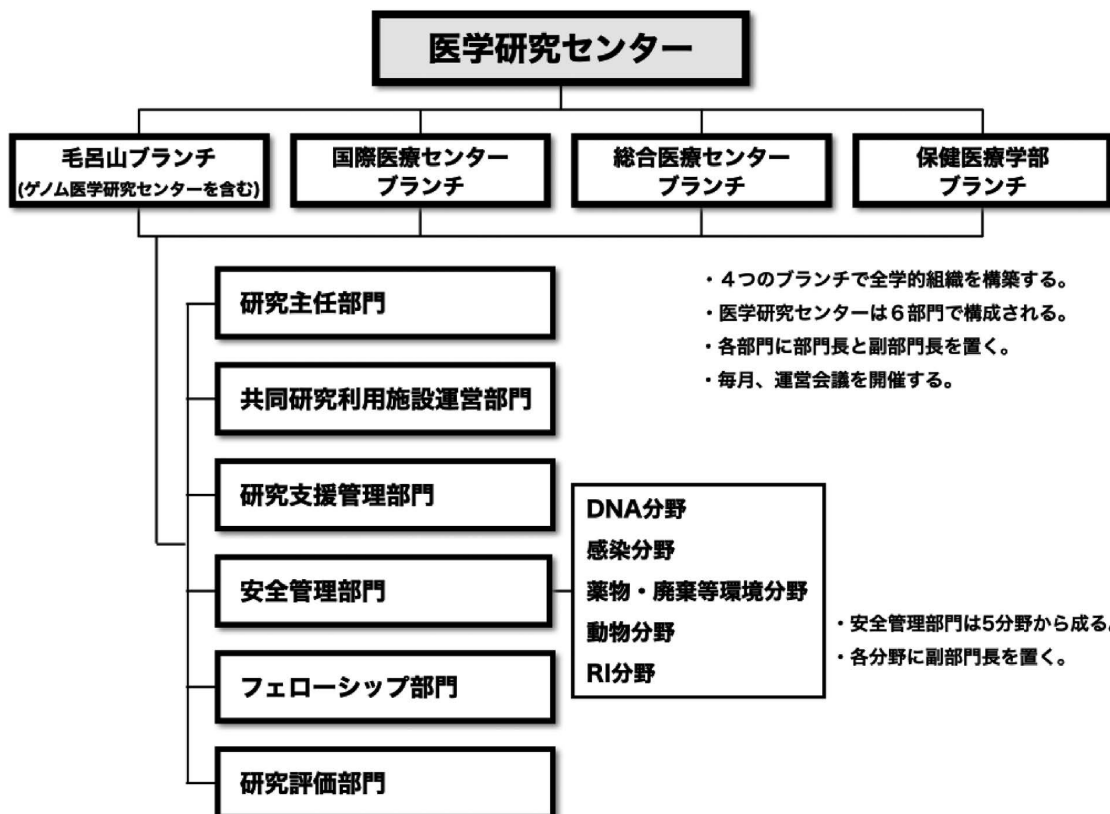
医学研究センター

片桐 岳信
(センター長)

医学研究センターは、埼玉医科大学医学研究センター規程に謳われているように、『本学の医学研究を円滑かつ効果的に行い、教育研究上の目的を達成するための基盤整備を図るとともに、当該研究活動に必要な企画立案、管理運営その他の研究支援を統括・推進し、もって本学の研究活動の質的向上及び研究成果の社会への還元に資すること』を目的として活動している。以下の6部門で構成され、それぞれの側面から本学全体の研究を支援している。

- 1) 研究主任部門：医学研究センターと各基本学科との情報共有に関わる。
- 2) 共同利用施設運営部門：各種共同利用施設の運営に関わる。
- 3) 研究支援管理部門：外部資金獲得の支援や学内グラントに関わる。
- 4) 安全管理部門：RI, DNA, 薬物, 環境, 動物, 感染など, 研究活動における安全管理に関わる。
- 5) フェローシップ部門：大学院生以上助手未満への経済的支援に関わる。
- 6) 研究評価部門：研究活動の内部評価や外部評価に関わる。

医学研究センターの構成員は、実際に研究に携わっている全キャンパス両学部部の教員から選出されている。センター長と各部門長・副部門長、各キャンパスのランチ長は、毎月、定例の運営会議を開催し、センター全体の情報を共有しながら研究活動を支援するために活動している。



2021（令和3）年度の医学研究センターの各部門は、主に以下のような活動に取り組んだ。

- ・研究主任部門は、毎年2回、学内グラント受賞者による研究発表会を主催している。令和3年度は、令和3年7月16日に第22回、令和4年3月25日に第23回学内グラント成果発表会を開催した。参加者の利便性を考え、両日とも3キャンパスの中継に加え、学内LANによるライブ配信を行った。
- ・共同利用施設運営部門は、本学が有する中央研究施設（毛呂山キャンパス、日高キャンパス）、研究部（川越キャンパス）における研究分野ごとの研究設備の整備、研究環境の改善、利用者の利便性、研究支援の向上、等について検討し、それぞれの施設の整備、運営に反映させている。また、共用実験スペースである「共同利用実験室」を管理・運営し、研究室を持たない者や、研究室の構築段階にある者の研究活動を支援している。今年度も、利用者登録を管理し、機器・備品の整備を行った。
- ・研究支援管理部門は、学外の競争的研究資金の獲得の支援、学内グラントの募集、審査会の開催、および管理、などを行っている。2020年度からリサーチアドミニストレーションセンターと協力し、文部科学省科研費の申請支援体制を強化している。特に、本学で研究代表者として科研費を獲得した回数が多いアドバイザーから、研究計画調書に対し採択に向けたコメントを受ける「科研費アドバイザー制度」を充実させた。この結果、今年度の科研費新規採択率は本学の過去最高を達成した。グラント選考委員会と協力し、令和3年度学内グラントの選考委員会を開催した。それぞれ、本学において長年行われたストーリー性のある研究を対象とした「丸木記念特別賞」1件、前年度の文科省科研費が不採択となった課題を対象とする「科研費申請支援」18件、学内グラントから科研費の採択を実現した「科研費採択奨励費」9件が選考された。
- ・安全管理部門では、本学における研究・教育・診療活動に必要な安全管理を行うことを業務とする。2021年度は、従来の薬物分野と廃液等環境分野を統合（薬物・廃液等環境分野）して、5つの分野としてそれぞれ活動した。1) DNA分野：組換えDNA実験を組換えDNA実験安全委員会と協力して行う、2) 感染分野：BSL2以上の病原性微生物や、それらが産生する毒物等の管理を病原性微生物等管理委員会と協力して行う、3) 薬物・廃液等環境分野：麻薬や向精神薬、農薬の管理、廃液及び廃棄試薬の管理を環境安全委員会と協力して行う、4) 動物分野：実験動物の管理を動物実験安全委員会と協力して行う、5) RI分野研究用の放射性同位元素をRI実験安全委員会と協力して管理する。
- ・フェローシップ部門は、「2022年度埼玉医科大学私費外国人留学生等奨学金」の募集と選考を行なった。本奨学金応募者の利便性を高めるため、英語版募集要項の作成や、募集要項の早期の掲示などの改善に取り組んでいる。
- ・研究評価部門は、本学のすべての常勤研究者を対象に研究業績を登録した研究業績データベースを管理している。本研究業績データベースには、医学部と保健医療学部をあわせて1,421名の研究者が登録されている（令和4年3月）。本データを基に、国立研究開発法人科学技術振興機構が運用する「新世代研究基盤リサーチマップ（researchmap）」とデータ交換を行い、研究業績の公開、教員の研究と診療の専門性に関するデータベースの運用、大学病院の特定機能病院認定、国際医療センターのJCI受審等のための研究業績の集計・出力に活用している。登録されたデータは、人事考課において研究活動実績を数値化するために、提出書類に「研究ポイント」として記載している。2021年度からは、カテゴリA（論文、学会発表、獲得研究費など）とB（その他の研究支援活動など）に分けて集計することとした。

医学研究センター

研究主任部門

海老原 康博
(部門長)

1. 構成員

- 部門長 海老原康博 (EBIHARA Yasuhiro) : 国際医療センター中央検査部: 教授 (任期: R3.3.31)
副部門長 田丸 淳一 (TAMARU Junichi) : 総合医療センター病理部: 教授 (任期: R3.3.31)
下岡 聡行 (SHIMOOKA Toshiyuki) : 保健医療学部医用生体工学科: 教授 (任期: R3.3.31)
佐藤 毅 (SATO Tsuyoshi) : 大学病院口腔外科: 教授 (任期: R3.3.31)
部門員 町田 早苗 (MACHIDA Sanae) : 医学研究センター: 講師
医学部の全基本学科及び保健医療学部の各学科研究主任

2. 目的・目標

本部門は、埼玉医科大学医学研究センター規程第3条により構成され、第9条に則り、研究現場とセンターの密な連絡を保つための活動を行うこと業務としている。研究主任に対して、基本学科の研究の責任者であると同時に研究費を適正に管理・運用する責任者であることも自覚していただき、適正な運用を推進するよう指導する。研究者向けの情報を発信し、研究主任から各所属部署内での周知徹底を依頼する。学内での共同研究が推進できるよう体制整備に努め、支援活動を行う。学内グラント成果発表会を2回/年開催し、学内の研究推進を図る。

3. 活動実績

(1) 学内グラント受賞者成果発表会の企画・開催

ア 第22回学内グラント成果発表会

2021年7月16日(金) 17:00から18:30

毛呂山キャンパス第3講堂

総合医療センター 管理棟2階 カンファレンス1 (テレビシステム中継)

国際医療センター 教育研究棟 5階会議L-5-2 (テレビシステム中継)

学内LAN ライブ配信

ビデオ収録配信

発表内容

「ヒト卵子幹細胞を体外で成熟卵子へ分化させる培養システムの開発」

赤堀太一 総合医療センター 産婦人科

座長: 総合医療センター 産婦人科 矢部慎一郎先生

「発達期経験依存的受容野可塑性におけるカンナビノイドの役割」

伊丹千晶 医学部 生理学

座長: 埼玉医科大学病院 脳神経内科・脳卒中内科 伊藤康夫先生

「末梢血由来骨芽細胞系細胞の同定と機能解析および動脈硬化発生機序の解明」

横田和浩 埼玉医科大学病院 リウマチ膠原病科

座長: 埼玉医科大学病院 血液内科 伊藤善啓先生

「在宅ヘルスケアモニターを用いて、早期診断と治療を直結させた包括ケアシステムの確立」

小林威仁 埼玉医科大学病院 総合診療内科

座長: 国際医療センター 臨床検査医学 海老原康博

関口記念特別賞

「減数分裂起程および生殖細胞分化におけるMgaの機能解析」

浦西洸介 医学部 ゲノム基礎医学

座長: 埼玉医科大学中央研究施設 形態部門 水野洋介先生

参加人数：合計 95 名

毛呂山キャンパス	21 名
川越キャンパス	3 名
日高キャンパス	7 名
学内 LAN ライブ配信	61 名
ビデオ収録視聴	3 名

イ 第 23 回学内グラント受賞者成果発表会

2022 年 3 月 25 日（金曜日）17：00 から 18：30

毛呂山キャンパス 本部棟 第 3 講堂

川越キャンパス 管理棟 4 階 会議室 2（テレビシステム中継）

日高キャンパス 教育研究棟 2 階 会議室 1（テレビシステム中継）

学内 LAN ライブ配信

発表内容

「抗がん剤誘発性神経障害を緩和する薬剤の探索」

飯島 洋介（総合医療センター 歯科口腔外科）

座長 総合医療センター病理部 百瀬修二先生

「深層学習を用いた IgA 腎症診断のための形態学的バイオマーカーの開発」

石川 雅浩（保健医療学部 臨床工学科）

座長 保健医療学部 臨床工学科 小林直樹先生

「iPS 細胞を利用した原因不明小児拡張型心筋症発症メカニズムの解明」

保土田 健太郎（国際医療センター 小児心臓外科）

座長 リサーチアドミニストレーションセンター 千本松孝明先生

「PPAR γ 1 新規プロモータ KO マウス胎生致死，胎盤巨細胞，血小板巨核球核内倍化との関係」

井上 郁夫（大学病院 内分泌・糖尿病内科）

座長 医学部 生化学 小谷典弘先生

丸木記念特別賞

「原発性アルドステロン症に対する新規診断法の開発およびその産業化」

西本 紘嗣郎（国際医療センター 泌尿器腫瘍科）

座長 大学病院 内分泌・糖尿病内科 井上和之先生

参加人数：合計 69 名

毛呂山キャンパス	22 名
日高キャンパス	1 名
川越キャンパス	3 名
学内 LAN ライブ配信	43 名

(2) 埼玉医科大学雑誌 48 巻 1 号医学研究センター研究主任部門報告

4. 自己評価と次年度計画

4-1. 前年度の改善計画に対する今年度の点検・評価

学内グラント受賞者成果発表会の参加人数が頭打ちとなっていることから，学内グラント受賞者成果発表会の内容・形式を改善し，より多くの参加が得られ，活発な討論を展開できるように対策してきた。新型コロナウイルス感染拡大の対応により，会場での参加に加えて，ライブ配信を取り入れて学内グラント成果発表会に参加しやすい環境を取り入れた。また，学内グラントの趣旨を鑑みて，発表では助成により科研費申請に向けての準備状況を盛り込んで頂くこととした。

4-2. 今年度の自己点検・評価に基づく改善計画

来年度から学内グラントの受賞者の選出基準などが変更になるため，それに合わせて，学内グラント受賞者成果発表会の内容・形式を改善し，より多くの参加が得られ，活発な討論を展開できるようにさらなる改善を行っていく。また，研究主任部門として大学全体の研究を活発化するために学内での共同研究等を加速させるための方策を議論していく。

医学研究センター

研究支援管理部門

小谷 典弘
(部門長)

1. 構成員

部門長 小谷典弘 (KOTANI Norihiro) : 医学部 生化学: 准教授
副部門長 堀内 大 (HORIUCHI Yutaka) : 医学部 微生物学: 講師
部門員 大竹 明 (OHTAKE Akira) : 大学病院 小児科: 教授
森 隆 (MORI Takashi) : 総合医療センター 研究部: 教授
佐藤 毅 (SATO Tsuyoshi) : 大学病院 歯科・口腔外科: 准教授
町田早苗 (MACHIDA Sanae) : 医学研究センター: 講師

2. 目的

研究マインド醸成, 学内グラントの活用, 学外研究費獲得の推進, 研究成果の管理, リサーチアドミニストレーションセンターとの連携による研究倫理推進等により, 学内研究者の研究活動を支援する。

3. 活動報告

1) 学内グラントと研究奨励費の助成

2021年度学内グラント募集では, 丸木記念特別賞3件, 科研費申請支援24件, 計27件の応募があった。分野別の複数の選考委員による予備審査の後, グラント選考委員会が開催され, 丸木記念特別賞1件, 科研費申請支援18件, 計19件の研究テーマが採択された。さらに, 学内グラント採択課題(一般枠)が翌年, 翌々年度に科研費採択(研究テーマが直接関連していることが条件)の場合に対象となる研究奨励費(20万円, 購買経由の使用, 経費報告書必要なし)が計9件助成された。

2) 科学研究費獲得状況の把握

2021年度の科研費申請総数は179件であり, 2020年度の187件に対してやや減少した。科研費採択結果は, 2020年度の新規採択39件(採択率20.86%), 採択総額201,110千円に対して, 2021年度は新規採択49件(採択率27.4%), 採択総額245,870千円であり, 採択率, 採択総額いずれも去年より高い結果となった。今後も引き続き, 学内グラントや科研費アドバイザー制度等の活用により, 申請総数・率, 採択率, 採択総額のさらなる向上を目指して支援を継続する。

3) 論文投稿報告書の管理

倫理審査の対象となった研究内容についての論文を投稿する際, 論文投稿報告書の提出が義務付けられていた。昨今の本学研究倫理の向上, および政府のスマート改革(脱印鑑)の流れを鑑み, 2020年度末をもって本制度を廃止することとし, 報告書廃止について学内ホームページから周知した(<http://smswww/mrc/about/support/quit.pdf>)。

4) 剽窃検知ソフト iThenticate の試験運用

論文作成では, 意図せず剽窃とならないように注意が必要である。近年の論文シデジタル化とインターネット普及を背景に, 平成25年施行の博士論文オープンアクセス化(公表義務)に伴って現在までに国内の半数近くの医学部を有する大学に導入されている剽窃検知ソフト iThenticate を, 研究マインド支援グラント(共通部門研究費)を用いて, 平成29年度から30年度にかけて試験的に運用を始め, 今年度も運用を継続している。2019年度から, 大学院学位審査の際の学位論文の提出にあたって, 本ソフトを使用した検知を実施することが義務化された。なお, 剽窃とは, 他の研究者のアイデア, 情報や成果等を当該研究者の了解もしくは適切な引用なく発表することであり, このような研究不正が発覚すると著者個人だけでなく組織全体に信用失墜等の重大な影響が及ぶ。

5) 悪徳雑誌（ハゲタカジャーナル）への対応

助成を受けた論文に無料アクセスできるようにするべきであるというブラン S 等の国際的な潮流に伴い、著者側が掲載料を支払い読者側は無料アクセスできるオープンアクセス誌が増加しているが、誤って悪徳雑誌（ハゲタカジャーナル）に投稿しないように注意が必要である（日本医学会から注意喚起の通達が発行され、日本学術会議において対応策が検討中である）。これに関して、2018年度より、論文投稿報告書にチェック項目を設け、英語論文投稿時は「投稿予定のジャーナルはPubMedに掲載されていますか?」「参照可能な優良出版社が運営するジャーナルですか?」等について確認するように注意喚起を行っている。

6) 新科研費アドバイザー制度

昨年度より、科研費採択率の向上を目指し、リサーチアドミニストレーションセンターとの共同で、科研費の全種目を対象とした新しい科研費アドバイザー制度を運用している。2021年度は、科研費審査委員や大型競争的研究資金獲得経験のある研究者を中心とした40名がアドバイザーとして登録され、利用者の研究計画調書を個別に添削した。利用件数は46件で、種目の内訳は若手研究16件、基盤研究(C)27件、基盤研究(B)1件、挑戦的研究(萌芽)2件であった。

さらに、片桐センター長を講師として、「2021年度科研費研究計画調書の書き方に関する講習会」を企画した。8月6日に実施したwebinarの受講者数は69名（受講登録者数156名）であった。webinarの内容は限定公開でYouTube配信を行い、その視聴回数は160回（2021年10月7日時点）であった。受講者アンケートでは、eラーニング・講習会は科研費アドバイザー制度の周知に役立ち、内容は判りやすく役に立ったとの回答を得た。

次年度以降も、より効果的で利用しやすいものを目指して「新科研費アドバイザー制度」をブラッシュアップし、本学の科研費採択率向上につなげたい。

医学研究センター

共同利用施設運営部門

坂本 安
(部門長)

1. 構成員

部門長：坂本 安 (SAKAMOTO Yasushi)	：中央研究施設機能部門：教授：任期：R4年3月31日
副部門長：佐藤 毅 (SATOH Takeshi)	：歯科・口腔外科：准教授：任期：R4年3月31日
副部門長：田丸 淳一 (TAMARU Jyunichi)	：総合医療センター病理部：教授：任期：R4年3月31日
部門員：一色 政志 (ISSHIKI Masashi)	：中央研究施設RI部門：教授：任期：R4年3月31日
部門員：仁科 正実 (NISHINA Masami)	：中央研究施設実験動物部門：准教授：任期：R4年3月31日
部門員：椎橋実智男 (SHIIBASHI Michio)	：情報技術支援推進センター：教授：任期：R4年3月31日
部門員：西本 正純 (NISHIMOTO Masazumi)	：中央研究施設日高ランチRI部門：准教授：任期：R4年3月31日
部門員：水野 洋介 (MIZUNO Yousuke)	：中央研究施設形態部門：准教授：任期：R4年3月31日
部門員：横尾 友隆 (YOKOO Tomotaka)	：中央研究施設日高ランチ実験動物部門：准教授：任期：R4年3月31日

2. 目的・目標

本部門は、埼玉医科大学研究センター規定第9条(2)に則り、本学研究者による最先端の高度な研究推進を支援するための学内共同利用の研究施設が、臨床及び基礎医学研究の推進・発展の基盤となり機能するために必要な事項について検討し、必要に応じて部門会議を開催して討議する。

3. 活動実績

【共同利用実験室利用の啓蒙と整備】

共同利用実験室は、実験室を持たない教員に対して、最小限の機器を備えた実験場所を提供し、もって当該教員の研究活動のセットアップに資することを目的として平成24(2012)年9月10日より運用が開始された。現在、基礎医学棟3階並びにゲノム棟4階に整備されている。それぞれが、12区画の実験ベンチを管理しており、利用申請を行うことができる。また、フェローステーションが併設されており、基礎棟に5つのデスク、ゲノム棟には9つのデスクが用意されている。利用者はデータ整理と休息のために使用することができる。令和3(2021)年度は、生理学、皮膚科、総合心療内科、消化管内科、小児科、歯科口腔外科、腎臓内科、ER、アドミッションセンター、医学研究センター、医学教育センター、RI部門、形態部門、乳腺腫瘍科、がんゲノム医療科、消化器腫瘍科、株式会社Revorf、脳神経外科、呼吸器内科、総合医療センター産婦人科、日高ランチ実験動物部門、日高ランチ機能部門により有効利用された。

【中央研究施設共同利用研究機器・設備整備】

以下の装置が研究マインド支援 Grant (共通部門)により整備され、利用が開始された。

- ①令和3(2021)年8月3日、遺伝子導入装置(ネッパジーン)：中央研究施設日高ランチ実験動物部門
- ②令和3(2021)年9月7日、マイクロプレートリーダー(BIO-RAD iMark)：中央研究施設機能部門
- ③令和4(2022)年2月2日、クリーンベンチ：中央研究施設実験動物部門

【テクニカルセミナーの開催】

以下のテクニカルセミナーを医学研究センター共同利用施設運営部門と中央研究施設で開催し、機器の取り扱い及び新しい研究技術を紹介した。

- ①令和3年(2021)11月4日18:00-19:00、ウェビナー、「多様なニーズに柔軟に対応する遺伝子導入システム」
- ②令和3年(2021)10月7日10:00-12:00、オンライン、「キーエンスオールインワン蛍光顕微鏡(BZ-X700)基本操作/解析説明」
- ③令和3年(2021)11月9日18:00-19:00、ウェビナー、「ゲノム編集による遺伝子改変細胞の活用法」
- ④令和3年(2021)11月10日10:00-16:00、オンライン、「Illumina Genomics Summit '21「クラウド必須時代のゲ

ノム超会議」

- ⑤令和3年(2021)7月14日18:00-19:00, ウェビナー, 「Liquid Biopsyの重要性とその可能性」
- ⑥令和3年(2021)11月17日18:00-19:00, ウェビナー, 「Photo Isolation Chemistry 技術を用いた空間/領域特異的トランスクリプトーム解析」

【委員会等】

1) 共同利用施設運営部門/中央研究施設運営委員会合同会議

①第75回中央研究施設運営委員会；【議題】1) 2022～2023年度の中央研究施設管理運営委員会・委員/オブザーバーについて(報告議案), 2) 研究医養成コース履修学生の中央研究施設の利用について(報告議案), 3) 中央研究施設設置希望機器リストに関して(承認議案), 4) 私学助成金に関して(報告議案), 5) 2020(令和2)年度の中央研究施設の会計処理に関して(承認議案). 【議事】1) 2022～2023年度の中央研究施設管理運営委員会・委員/オブザーバーの構成について説明された. 2) 研究医養成コース履修学生の中央研究施設の利用について, 担当教員と履修学生の利便性を考慮して機能部門, 形態部門に続き実験動物部門における利用申請書を作成した旨説明された. 3) ①中央研究施設設置希望機器リストに関して, 1.～3. 研究マインド支援 Grant「両学部における共通部門」の補助を受けて整備された. 1. BIO-RAD社製マイクロプレートリーダー(iMarkマイクロプレートリーダー解析システム): 中央研究施設機能部門, 2. ネットパージン社製遺伝子導入装置スーパーエレクトロポレーターNEPA21 Type II & MS白金プレート電極/ケーブル: 中央研究施設日高ランチ実験動物部門, 3. アズワンクリーンベンチ垂直直流タイプICB-1300: 中央研究施設実験動物部門. ②中央研究施設設置希望機器リストの更新に関して説明があり, 機器リストが承認された. ③技術的進歩があり, 卓上小型の装置が出現し, 高性能(感度: 約100倍)で安価な装置がある. また, 大型機器の老朽化が進んでいる. 4) 私学助成金に関して以下の報告がなされた. 文部科学省から「大学等における研究設備・機器の共用化のためのガイドライン」が示される可能性があり, 22年度から運営される予定と思われる. 「機関全体の経営課題」として捉え, 共用の取組を担う研究現場担当者がその推進を図る際の手引きとなるよう, また, 経営層においても活用してもらうよう, 本ガイドラインを作成。」と説明があり, 研究設備の整備に関する見直しが必要になると考えられる. 5) 2020年度(令和2年度)の中央研究施設経理処理報告があり, 承認された.

4. 自己評価と次年度計画

4-1. 前年度の改善計画に対する今年度の点検・評価

令和3年3月に埼玉医科大学共同利用施設活用の手引を作成し中央研究施設ホームページの各所に掲載したが, 共同利用実験室の利用方法等に関する質問が多く, 手引きの閲覧者も増加したのと思われる. また一定の効果があったと推測する. 次年度は, 改訂版の発行を考慮する時期にあると思われる. 更に, 医学研究センター共同利用施設運営部門, 中央研究施設, RAセンター, 事務部門で新たに研究機器, 研究設備の整備に関する購入～管理までの連携作業を構築する旨話し合いを持つことができ, 各共同利用施設の目標となった.

4-2. 今年度の自己点検・評価に基づく改善計画

近年, 外部助成金を得ての研究機器の整備が滞っているため共同利用施設運営部門と医学研究センター, 事務部門とタイアップし, 共同利用研究機器購入経費の獲得を模索し, 連携体制を確立して行く. 共同利用実験室に関しては, フェローステーションが一部, 他の基本学科研究室と同室になっており, 感染対策, 会話等に関して懸念があるため仕切板を設置できるように働きかける.

医学研究センター

安全管理部門

三谷 幸之介
(部門長)

1. 部門構成

部門長 三谷幸之介：医学部 ゲノム応用医学 (教授)

感染分野

副部門長 村上 孝：医学部 微生物学 (教授)

部門員 前田卓哉：臨床検査医学 (教授)

森 隆：総医セ 研究部 (教授)

光武耕太郎：国医セ 感染症・感染制御科 (教授)

佐藤正夫：保医学部 臨床検査学科 (教授)

河村 亨：臨床検査医学 (中央検査部) (課長補佐)

池田和博：医学部 ゲノム応用医学 (准教授)

堀内 大：医学部 微生物学 (講師)

薬物・廃液等環境分野

副部門長 奥田晶彦：医学部 ゲノム基礎医学 (教授)

部門員 森 隆：総医セ 研究部 (教授)

安達淳一：国医セ 脳神経外科 (准教授)

野寺 誠：保医学部 健医科学科 (准教授)

淡路健雄：医学部 薬理学 (准教授)

西本正純：中央研究施設 RI 部門 (准教授)

齋藤健一：総医セ 薬剤部 (課長)

藤原智徳：保医学部 健医科学科 (教授)

村松俊裕：国医セ 心臓内科 (教授)

DNA 分野

部門長 三谷幸之介：医学部 ゲノム応用医学 (教授)

副部門長 千本松孝明：RA センター (教授)

村上 孝：医学部 微生物学 (教授)

部門員 中野貴成：医学部 生化学 (講師)

森 隆：総医セ 研究部 (教授)

海老原康博：国医セ 臨床検査医学 (教授)

横尾友隆：中央研究施設 実験動物部門 日高ランチ (准教授)

脇田政嘉：保医学部 臨床工学科 (講師)

菅原哲雄：RA センター 知財担当 (講師)

荒木靖人：リウマチ膠原病科 (准教授)

百瀬修二：総医セ 病理部 (准教授)

動物分野

副部門長 森 隆：総医セ 研究部（教授）
 西川 亮：国医セ 脳神経外科（教授）
 小野川 傑：保医学部 臨床検査学科（教授）
 横尾 友隆：中央研究施設 実験動物部門 日高ブランチ（准教授）

RI 分野

副部門長 西本 正純：中央研究施設 RI 部門（准教授）
 西川 亮：国医セ 脳脊髄腫瘍科（教授）
 熊倉 嘉貴：総医セ 画像診断科・核医学科（教授）
 茅野 秀一：保医学部 臨床検査学科（教授）

2. 今年度の活動**感染分野**

令和3年度は、病原体等取扱申請書19件（新規申請2件、継続申請17件）、病原体等移動（受入）申請書5件、指定実験室使用申請2件（うち修正1件）が提出された。これらの申請に関して、病原性微生物等管理委員会で審議、修正された後、すべて承認された。COVID-19患者末梢血の研究利用について確認した。また教育訓練についてAPRIN eラーニング関連項目を吟味し受講等の利用について検討した。

薬物・廃液等環境分野

令和3年度より、薬物分野と廃液等環境分野が合体して、薬物・廃液等環境分野となった。当該年度における薬物についての活動としては、例年通り、本学における麻薬・向精神薬を用いた研究の状況について調査を行った。加えて、国際医療センター・臨床部門から、新規に、麻薬を用いた研究の実施についての希望があったので、国際医療センター総務課と連携し、当該研究者の「麻薬研究者免許証」の取得および研究実施場所であるゲノム棟の整備に協力した。廃液等については、当該年度においても、各キャンパスにおける担当事務職員と随時連絡をとり、問題が起こっていないことを確認した。

DNA 分野

令和3年度の遺伝子組換え生物等の使用等における審査申請状況は次の通りである。第二種拡散防止措置申請書（承認39件）、内容変更（承認31件）、譲渡届（承認1件）教育訓練受講証明書発行（30件）を実施した。また、大学院博士課程共通科目「実用実験医学特別講義」を6月に実施した。

文部科学省からの「研究段階におけるゲノム編集技術の利用により得られた生物の使用等に係る留意事項（文科省研究振興局ライフサイエンス課事務連絡 令和3年10月22日）」について周知徹底するため、①教職員を対象に一斉メール配信、②医学研究センターホームページ「お知らせ」及びSMSの「トピックス」へ掲載した。また、適正な管理運営のために「第二種使用等拡散防止措置承認申請書」の様式を変更した。

今後も、審査基準のポイントを明確にすることで、委員会として審査基準のさらなる統一について継続して検討する。

動物分野

学内にて実施される動物実験は、埼玉医科大学の動物実験委員会により審査・承認が行われている。令和3年度、動物実験計画書242件〔注意を要する動物実験計画書：組換えDNA実験（P1A実験：85件、P2A実験：8件）、感染実験（ABSL1実験：4件、ABSL2実験：9件、毒物使用実験：5件、RI使用実験：11件）〕、動物実験中間報告書・自己点検票209件、動物実験結果報告書・自己点検票33件、動物実験計画（変更・追加）承認申請書45件、動物実験（終了・中止）報告書33件、実験室設置承認申請書27件について承認した。随時メール審査も開催し、動物実験計画書、動物実験計画（変更・追加）承認申請書、実験室設置承認申請書を承認した。様式8動物実験の自己点検票と様式9飼養保管状況の点検票により、令和3年度の動物実験そして飼養保管状況の自己点検を行った。さらに、動物実験等に関する情報公開の一環として、以下の1-6の内容を外部閲覧可能なホームページ（<http://www.saitama-med.ac.jp/medlinks/animal/index.html>）に行った。

1. 期間内規程・規則（埼玉医科大学動物実験規程、埼玉医科大学動物実験委員会規則）
2. 自己点検評価の結果
3. 外部検証の結果
4. 飼養及び保管の状況（動物種及び動物数施設の情報）
5. その他（動物実験計画書等の審査の状況と特に注意を要する動物実験の実施状況、教育訓練の実績、動物実験委員会、動

物実験委員会審査手順書)

6. 動物実験計画書関連書式（様式 1 動物実験計画書，様式 2 動物実験計画（変更・追加）承認申請書，様式 3 動物実験（終了・中止）報告書，様式 4 動物実験（中間・結果）報告書，様式 5 飼養保管施設設置承認申請書，様式 6 実験室設置承認申請書，様式 7 施設等（飼養保管施設・動物実験室）廃止届，様式 8 動物実験の自己点検票，様式 9 飼養保管状況の点検票）

RI 分野

令和 3 年度より，RI 部門の管理は西本正純と日詰光治の 2 名により行われる旨，原子力規制委員会に届出した。法的安全性の確保から，施設の老朽化に伴う設備修理に，法人からの予算措置を得たうえで着手しているが，修理が必要な箇所が施設全体に及んでおり，現在も作業は継続中となっている。令和 3 年度の人に対する被曝管理・施設設備の安全点検を含めた法的に義務付けられている監督官庁への報告は無事終了した。令和 3 年度末における利用登録者数は，21 名となっている。施設の有効利用を促進するため，令和 3 年 3 月に講習会を開催した。

中央研究施設日高ランチ RI 部門の廃止に係る法的手続・実務的な作業が，令和 3 年 11 月をもって完全に終了した。

医学研究センター

フェローシップ部門

片桐 岳信
(部門長)

1. 構成員

部門長	片桐岳信 (KATAGIRI, Takenobu)	: ゲノム基礎医学: 教授 (任期: R5.3.31)
副部門長	高田 綾 (TAKADA, Aya)	: 法医学: 教授 (任期: R5.3.31)
部門員	森 茂久 (MORI, Shigehisa)	: 医学教育センター: 教授 (任期: R5.3.31)
部門員	名越澄子 (NAGOSHI, Sumiko)	: 総合医療センター消化器・肝臓内科: 教授 (任期: R5.3.31)
部門員	淡路健雄 (AWAJI, Takeo)	: 薬理学: 准教授 (任期: R5.3.31)
部門員	小林直樹 (KOBAYASHI, Naoki)	: 保健医療学部・臨床工学科: 教授 (任期: R5.3.31)
部門員	井上 勉 (INOUE, Tsutomu)	: 大学病院腎臓内科: 准教授 (任期: R5.3.31)
部門員	栗田浩樹 (KURITA, Hiroki)	: 国際医療センター脳神経外科: 准教授 (任期: R5.3.31)

2. 目的・目標

本部門は、学校法人埼玉医科大学医学研究センター規定第9条(4)に則り、大学院医学研究科委員会、および医学教育センターと連携のもと、教員以外の研究者の経済的・身分的支援について協議し答申することを活動の中心とする。本目的のために、大学院、リサーチフェロー、および学外からのフェローシップに関与する。

今年度は、「2021年度埼玉医科大学私費外国人留学生等奨学金」受給者の確認と、「2022年度埼玉医科大学私費外国人留学生等奨学金」の応募と選考、及び、その結果を医学研究センター運営会議に上程することを目標として活動した。

3. 活動実績

1) 部門会議

随時、メール会議を開き、迅速に対応した。

(1) 第1回 部門会議 (令和3年5月25日(火)~令和3年5月31日(月)): メール会議)

出席8人 欠席0人

オブザーバー (松下副学長, 庶務課)

議事: 「新部門員の紹介と挨拶」について

: 「『2020年度活動報告』原稿の確認」について

: 「『2022年度埼玉医科大学私費外国人留学生等奨学金』募集要項の確認」について (議事録有, 運営会議報告)

(2) 第2回 部門会議 (令和3年8月27日(金)~令和3年8月30日(月)): メール会議)

出席8人 欠席0人

オブザーバー (松下副学長, 庶務課)

議事: 「『2022年度埼玉医科大学私費外国人留学生等奨学金』の募集要項の掲示」について

: 「令和2年度学内報原稿の確認」について (議事録有, 運営会議報告)

(3) 第3回 部門会議 (令和3年9月22日(水)~令和3年9月24日(金)): メール会議)

出席8人 欠席0人

オブザーバー (松下副学長, 庶務課)

議事: 「『2021年度埼玉医科大学私費外国人留学生等奨学金』条件付き候補者の取下げ」について (議事録有, 運営会議報告)

(4) 第4回 部門会議 (令和3年11月12日(金)~令和3年11月23日(火)): メール会議)

出席8人 欠席0人

オブザーバー (松下副学長, 庶務課)

議事: 「『2022年度埼玉医科大学私費外国人留学生等奨学金』の応募者」について

- :「応募者の選考前資格確認」について
- :「応募者の選考」について
- :「『私費外国人留学生等奨学金選考基準』の内規を再検討」について
- :「大学院医学研究科との連携の必要性」について（議事録有，運営会議報告）

(5) 第5回 部門会議（令和3年12月23日（木）～令和3年12月28日（火）：メール会議）
出席8人 欠席0人

オブザーバー（松松下副学長，庶務課）

- 議事：「『2022年度埼玉医科大学私費外国人留学生等奨学金』の追加募集」について
- :「『私費外国人留学生等奨学金選考基準』の内規を再検討」について
 - :「大学院医学研究科との連携」について（議事録有，運営会議報告）

(6) 第6回 部門会議（令和4年2月17日（木）～令和4年2月22日（火）：メール会議）
出席8人 欠席0人

オブザーバー（松下副学長，庶務課）

- 議事：「『2022年度埼玉医科大学私費外国人留学生等奨学金』候補者の報告」について
- :「大学院医学研究科との連携」について
 - :「2022年度の構成員の確認」について（議事録有，運営会議報告）

(7) 第7回 部門会議（令和4年3月30日（水）～令和4年3月31日（木）：メール会議）
出席8人 欠席0人

オブザーバー（松下副学長，庶務課）

- 議事：「令和3年度大学年報原稿」について
- :「2022年度構成員」について（議事録有，運営会議報告）

2) 埼玉医科大学私費外国人留学生等奨学金の募集・選考について

「2021年度埼玉医科大学私費外国人留学生等奨学金」の条件付き候補者2名について，兩名の指導教員より申請取り消し報告書が提出され，全会一致で承認の上，令和3年10月の医学研究センター運営会議にて報告した。

「2022年度埼玉医科大学私費外国人留学生等奨学金」を令和3年11月1日～10日に募集した。応募者3名（新規外国人1名，継続外国人2名）の資格確認と選考を行った。支給対象者が規定上限の4名に達しないため，令和3年12月1日～10日に追加募集を行ったが，応募者はいなかった。これらの結果について，令和4年1月の医学研究センター運営会議に答申した。

3) 「埼玉医科大学私費外国人留学生等奨学金」選考基準内規の見直し

「埼玉医科大学私費外国人留学生等奨学金」の選考基準内規に関する見直しを行った。これは，外国人留学生の継続受給者を優先的に審査すること，および，日本人大学院生最終学年を対象とすることを明記したものである。

4) 大学院医学研究科との連携

今後，継続受給者を優先的に選考する方針であることから，「埼玉医科大学私費外国人留学生等奨学金」として大学院生が増加することが予想される。大学院医学研究科と密に連携することを要請し，大学院医学研究科長と博士課程運営委員長に了解頂いた。

4. 自己評価と次年度計画

4-1. 前年度の改善計画に対する今年度の点検・評価結果

前年度の改善計画に基づき，令和3年度も，「埼玉医科大学私費外国人留学生等奨学金」を募集し，厳正・公平な審査を行った。特に，複数年の継続受給に関する選考基準内規を見直し，応募対象となる日本人大学院生の条件を明記した。大学院医学研究科との連携を確認した。

4-2. 今年度の自己点検・評価結果に基づく改善計画

今年度も，「埼玉医科大学私費外国人留学生等奨学金」応募者を厳格に審査し，本奨学金が有効に利用できた。来年度も，引き続きこの体制が維持されるよう，早期に募集の準備を整えて厳格な審査を行う。大学院医学研究科と連携し，大学院生の支援を検討する。短期留学生等に対する経済的支援については，引き続き協議する。

医学研究センター

研究評価部門

椎橋 実智男
(部門長)

研究評価部門の現在の主な活動は、本学独自の研究業績データベースシステム（「研究業績プロ」）の運用による、本学の研究業績のデータベース化、および国立研究開発法人科学技術振興機構（JST: Japan Science and Technology Agency）が運用する「データベース型研究者総覧 researchmap」と連携した研究業績の公開、教員の研究と診療の専門性に関するデータベースの運用である。また、平成28年度からは研究活動実績登録の運用を開始し、人事考課で教育と同じく「研究のポイント制」を実施している。これらを通して、本学の研究活動の発展に寄与すべく活動を続けている。以下に、令和3年度の活動状況を報告する。

1 研究業績データベースシステム（「研究業績プロ」）について

1) 概要

「研究業績プロ」は、本学独自の研究業績データベースシステムで、本学の全研究者を対象に研究に関わる情報を蓄積し、学内に公開するシステムである。

<https://mrc-gdd.saitama-med.ac.jp/smsap/P300>

（医学研究センターのホームページからもリンクあり）

令和4年3月現在、医学部と保健医療学部をあわせて1,321名の研究者が登録されている。利用（アクセス）の状況を図1に示す。

2) 運用の状況（令和3年4月から令和4年3月まで）

- 4月 保健医療学部の教員に対する利用説明会の実施
- 5月 中央研究施設を利用した研究成果のデータの提出
- 6月 国際医療センターへの研究業績の提出
- 7月 人事考課のための研究活動実績登録データダウンロード
- 8月 大学病院への研究業績の提出（特定機能病院）

3) researchmap とのデータ交換

researchmap のシステムのバージョンアップに伴い、研究業績データベースシステムを停止することなくデータ交換が可能となったため、令和2年11月より基本的に毎月初旬にデータ交換を実施している。

4) 研究業績データベースシステムのパスワード自動再発行機能の追加

例年、人事考課の提出時期の7月から8月にかけてパスワードの問い合わせが多くあった。令和3年度研究マインド支援 Grant（共通部門）を受け、研究者のメールアドレスに自動で新しいパスワードを送信する機能を付加した。

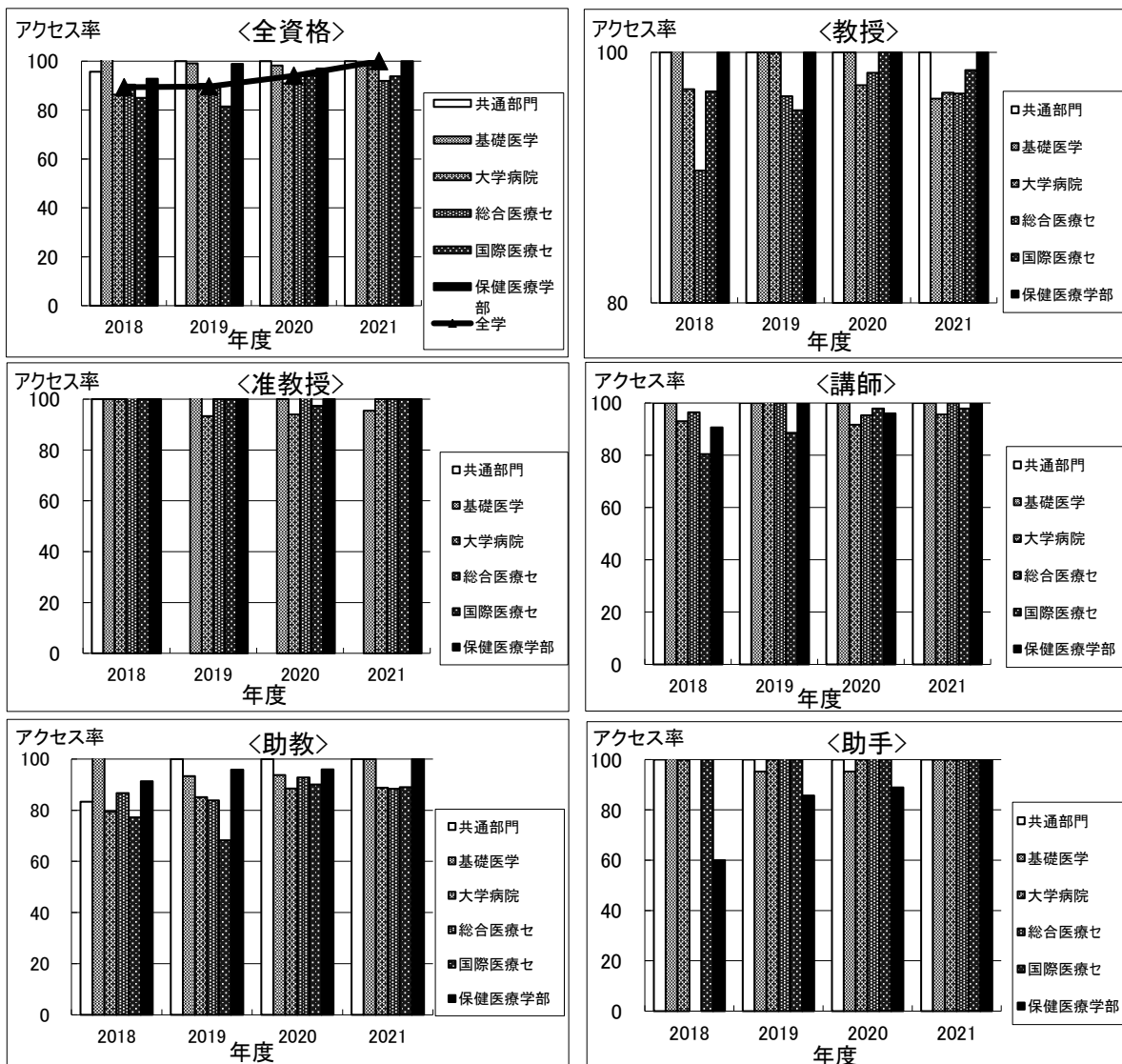
研究業績データベースアクセス数(2021/4 ~ 2022/3)

	教授	准教授	講師	助教	助手	合計
共通	7	0	4	6	5	22
基礎医学	26	21	30	15	19	111
大学病院	60	38	43	238	8	387
総合医療センター	59	36	58	265	1	419
国際医療センター	70	32	45	138	1	286
保健医療学部	27	16	28	20	5	96
合計	249	143	208	682	39	1321

研究業績データベースアクセス率

	教授	准教授	講師	助教	助手	合計
共通	100.0	0.0	100.0	100.0	100.0	100.0
基礎医学	96.3	95.5	100.0	100.0	100.0	98.2
大学病院	96.8	100.0	95.6	88.8	100.0	91.9
総合医療センター	96.7	100.0	100.0	88.3	100.0	91.9
国際医療センター	98.6	100.0	97.8	89.0	100.0	93.8
保健医療学部	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
合計	97.6	99.3	98.6	89.3	100.0	93.5

2022-3-31現在



- * 100%を超えているのは、退職後、非常勤になってからもログインした方がいるため
- * かわごえクリニックは総合医療センターに含む
- * 特任教授は教授に、特任准教授は准教授に含む

図 1.